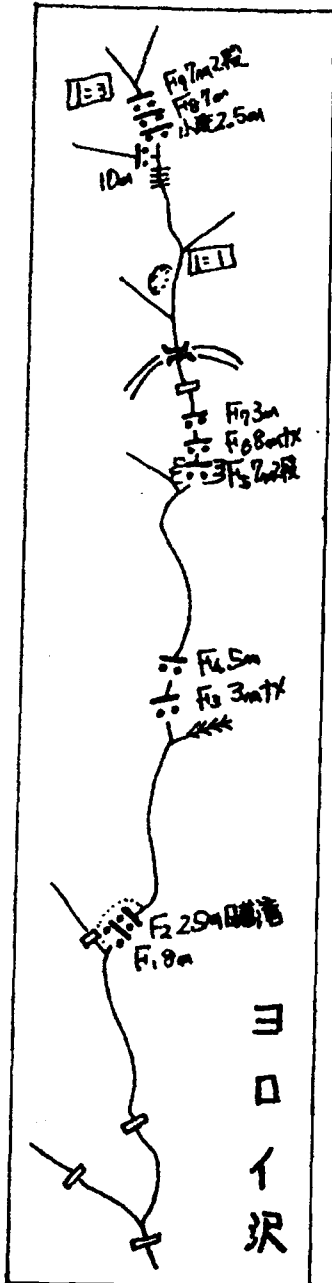


2つの大きな滝を越えたあとは、小滝が連続するようになる。次々と出てくるので、結構楽しい。

やがてこの沢最大の滝15mに到着。右岸を捲く。岩がモロいので、かなり大きく捲く。右岸から合流する小沢を登ってから草付きに入りこむのが一番合理的なルートのようなのである。



この先はぐっと平凡になる。水の流れもかぼそい。そしてそれもブッシュの中に消えそうになっているのを確認して、登ってきた沢をそのまま下降する

(記・

[タイム] 旭沢右俣出合(8:00)→  
遡行終了(9:50)

ヨロイ沢

1985年8月24日

L:

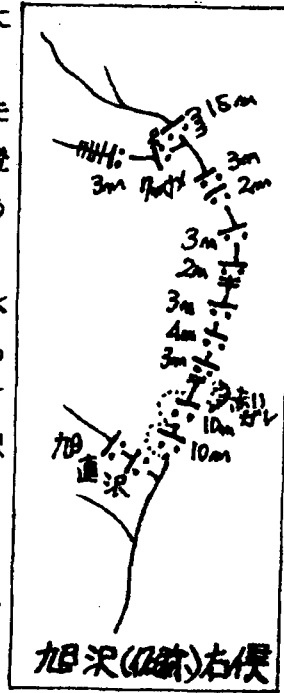
旭沢(仮称)を少し下ってからヨロイ沢に入る。日暮滝までは何も無い河原歩き。日暮滝は25mの大滝。その手前には8mの滝がかかっている。手前の8mは右からトライするが、中間がモロイので断念。右岸を捲く。日暮滝は、右岸のブッシュ帯を登り、滝の落口へトラバース。一応ザイルを出して、ビレイして通過。

しばらく歩くと、3mと5mの滝が出てくるが、なんとなくパス。そのあと左より小沢が入る所にペンキで「登り口」の表示がある。釣師の目印である。ここよりF<sub>5</sub>~F<sub>7</sub>までの滝はすべて直登する。

堰堤を越すと橋。ここで小休止後、先に進む。

すぐ二俣となるが、右に入る。右岸にスラブを見て先に進むと、また二俣。ここは左に入る。やがて小滝が出てきて、その先に7mの滝が2つ続く。すべて直登。

この先すぐ二俣となるが、もう水も潤れたので、遡行終了とする。橋まで下降し、あとは林道を下山する。



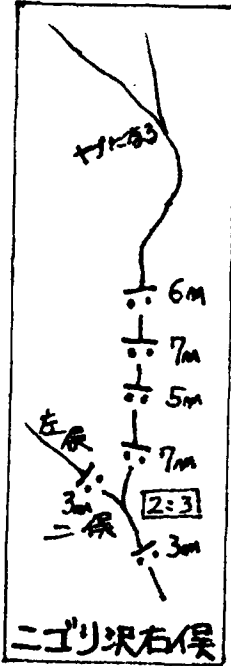
(記・宍戸幸務)

【タイム】 ヨロイ沢出合(7:50)→橋(10:05, 10:15)→遊行終了(10:50)→橋(11:30)

1985年6月23日

ニゴリ沢右俣

L



二俣までの記録は、会報No. 23を参照してほしい。我々の今回の予定は、右俣に入ってすぐまた右に入り、流石山と大峠の中間部に出る沢に入る予定であったが、入口がわからず、右俣本流の遊行となってしまった。

右俣には最初のうち滝が少しあるだけで、あとは平凡な河原歩きとなり、そのあとはヤブこぎとなる。ヤブはとてもひどく、大峠直下へは突き上げられず、左の登山道へ逃げる破目となる。イワナは1匹釣れただけであった。(記・

【タイム】 ニゴリ沢出合(7:00)→二俣(8:50)→遊行終了(11:05)

加藤谷川左沢

1985年8月24日

L

林道1003m地点から作業道跡の踏跡を利用してヨロイ沢の出合に向かう。今では、釣人のための道となっている。最後の下りは、ヨロイ沢出合までの急坂となり、一気に下る。

ヨロイ沢出合から加藤谷川本流を遡る。ニゴリ沢出合まで10分。加藤谷川左沢出合までは約20分である。途中は河原歩きとなる。

8時50分、左沢の遊行を開始する。沢幅はせいぜい3~4mの枝沢で、コケむ

